学校番号	３１３

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	世界史Ａ新訂版（実教出版）						
副教材等	アカデミア世界史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史地図・図表・年表などを使用することで、各時代の流れや特徴をつかみ、歴史的なものの見方や考え方を身につけるようにする。

2　学習の到達目標

日本および世界の歴史的過程と地域的特色を理解し、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界史へのいざない	世界史学習の導入として、自然環境と人類の歴史に関わる課題や日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題を設定し、考察する活動を通じて、世界史学習の基本的な技能に触れ、世界史への興味・関心を高めさせる。	○	○	○	○	a: 自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる主題を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:設定された主題について、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定した主題について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

前期	序章文明のはじまり〝	人間が自然環境に適応しながら進化し農耕牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことを理解させる。	○	○	○	○	a: 人類の歴史のはじまりに対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b: 人類の歴史のはじまりについて、多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 人類の歴史のはじまりに関して、人骨や石器などの図像資料から、有用な情報を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 d 人類の歴史のはじまりについて、地理的条件と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。:	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。
前期	第1章 ユーラシア諸文明の特質	西アジアの風土と諸民族、イラン文明の伝統、イスラームの成立と拡大などを扱い、西アジア世界・イスラーム世界の特質を把握させる。ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の成立などを扱い、ヨーロッパ世界の特質を把握させる。南アジア・東南アジアの風土と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響などを扱い、南アジア世界・東南アジア世界の特質を把握させる。東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制などを扱い、日本を含む東アジア世界の特質を把握させる。	○	○	○	○	a: ユーラシア各地に形成された諸文明の特質に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b: ユーラシア各地に形成された諸文明の特質について、今日の世界諸地域における社会・文化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: ユーラシア各地に形成された諸文明の特質に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: ユーラシア各地に形成された諸文明の特質についての基本的な事柄を今日の世界諸地域における社会・文化と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

前期	第2章ユーラシアの交流	ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長を把握させる。ヨーロッパにおける商業圏の発展や、モンゴル帝国の拡大とモンゴルによるユーラシアの一体化を把握させる。 〃	○	○	○	○	a: 8 世紀以降のユーラシアの海、陸における交流について、これらの地域間交流がのちの世界の一体化の前提となったことへの関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b: 8 世紀以降のユーラシアの海、陸における交流に特質を見いだし、それを支えた都市や港のネットワーク、地域世界相互の文化変容などと関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 8 世紀以降のユーラシアの海、陸における交流の特質に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 8 世紀以降のユーラシアの海、陸における交流の特質についての基本的な事柄を、地域世界相互の文化変容と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

前期	第3章一体化に向かう世界	大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流を扱い、世界の一体化への動きを理解させる。また、ヨーロッパの主権国家体制の成立について扱う。	○	○	○	○	a: 大航海時代におけるヨーロッパ人の海外進出、ルネサンスや宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b: 大航海時代におけるヨーロッパ人の海外進出、ルネサンスや宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立に特質を見いだし、世界商業の進展などと関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 大航海時代におけるヨーロッパ人の海外進出、ルネサンスや宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 大航海時代におけるヨーロッパ人の海外進出、ルネサンスや宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立についての基本的な事柄を、世界商業の進展などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

後期	第4章アジアの繁栄と世界	アジアの諸国家の政治と社会、大西洋貿易の展開を扱う。	○	○	○	○	ａ：アジアの諸帝国の繁栄、大西洋貿易の展開に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 ｂ：アジアの諸帝国の繁栄、大西洋貿易の展開に特質を見いだし、ヨーロッパ諸国の進出と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ｃ：アジアの諸帝国の繁栄、大西洋貿易の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：アジアの諸帝国の繁栄、大西洋貿易の展開についての基本的な事柄を、これらの地域へのヨーロッパ諸国の進出と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

後期	第5章19世紀の世界の一体化と日本〟	″産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解させる。″ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解させる。	○	○	○	○	ａ:18世紀後期以降の西ヨーロッパとアメリカの諸革命と産業社会の成立、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。ｂ:18世紀後期以降の西ヨーロッパとアメリカの諸革命と産業社会の成立、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に特質を見いだし、19世紀の世界の一体化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ｃ:18世紀後期以降の西ヨーロッパとアメリカの諸革命と産業社会の成立、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ:18世紀後期以降の西ヨーロッパとアメリカの諸革命と産業社会の成立、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌についての基本的な事柄を 19世紀の世界の一体化と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

後期	第6章二つの世界大戦	″輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20 世紀という時代の特質を人類的視野から把握させる。第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義などについて考察させる。 ″	○	○	○	○	ａ：″19 世紀末から 20 世紀初頭に欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化と 20 世紀という時代の特質などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 また、第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響と平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 ｂ:″20 世紀という時代に 19 世紀までとは性格の異なる人類史的特質をみいだし、社会の急激な変化の具体的な様相と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 また、第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格について、それらが及ぼした影響と平和の意義などと関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。″ ｃ:20 世紀という時代の人類史的特質、および第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、両大戦の影響と平和の意義などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ:20 世紀という時代の人類史的特質についての基本的な事柄を社会の急激な変化の具体的な様相と関連付けて理解しその知識を身につけている。また、第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を、両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。″	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

後期	第7章第二次世界大戦後の世界と日本〝	″第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。 ″	○	○	○	○	a：第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、核兵器問題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b：第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、核兵器問題などに特質を見いだし、世界の政治・経済の動向と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c：第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、核兵器問題などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、核兵器問題などについての基本的な事柄を、世界の政治・経済の動向と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う 「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

後期	終章持続可能な世界をめざして〝	原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関わる問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究させ、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察させるとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付かせる。	○	○	○	○	ａ：冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因・背景、科学技術の人類への寄与と課題、人類の生存と環境、世界の平和と安全などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 ｂ：冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因・背景、科学技術の人類への寄与と課題などについて、人類の生存と環境、世界の平和と安全などの問題と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ｃ：冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因・背景、科学技術の人類への寄与と課題などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因・背景、科学技術の人類への寄与と課題などについての基本的な事柄を、人類の生存と環境、世界の平和と安全の問題と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業中の意欲・関心・態度・発問への回答・ワークの様子や定期考査・課題レポートなどによって行う「歴史の見方・考え方」「知識・理解」といった観点から出欠状況などを考慮して、評価する。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。